2025 年度　一般選抜・共通テスト利用選抜

「小　論　文」採点基準説明書

１．出題のねらい

この問題は、服を着ることに関する批評を読み、筆者が述べる「存在と演技」の関係について自らの経験と結びつけながら考察させるものである。自らの経験を取り上げながら説明させることで、**(1)情報を取得するための要約的な読みや小説・物語の世界に入りこむ没入的な読みとは異なり、他者の思考や主張を自分の経験とも照らし合わせながら対話的に読み込んでゆく力があるか**を見たい。また、「制服」という身近な話題から「＜わたし＞とはだれか？」という深い問題へと踏み込む論の展開と向き合うなかで、**(2)「存在」と「演技」、あるいは「本当の自分」と「社会的属性」は別であるという慣れ親しんだ認識から一旦離れ、自らのあり方を真摯に見つめ直す力があるか**も問いたい。

２．アドミッション・ポリシーとの対応

［対応するアドミッション・ポリシー］

１．十分な基礎学力を持ち、自ら問題を発見し解決しようとする意欲のある人
　→課題文の内容を読み解き、自らの視点や切り口をもって考察できる。

２．基本的な倫理観と思いやりの心を持ち、利他的に考えることができる人
　→課題文で示された筆者の考えを自身の経験や立場とも重ね合わせながら、対話的・共感的に理解してゆくことができる。

３．礼節を重んじながら自らの考えを他者に伝えるとともに、他者の多様な意見を理解しようとする協調性と柔軟性に富む人
　→課題文の内容を丁寧に理解したうえで、自らが慣れ親しんだ認識を疑い、そこから考えたことを他者にわかりやすく伝えることができる。

４．多様な文化、変容する社会の中での自らの使命を理解しようとする人
　→「制服」という題材から自らや他者がおかれた社会的状況やそこでの立場を想像し、学生あるいは将来に職業人となる自らのあり方を省みることができる。